

令和 6 年度第 1 回扶桑町総合教育会議・議事録

(記録者 社本 豊和)

名 称	令和 6 年度第 1 回扶桑町総合教育会議
日 時	令和 6 年 1 1 月 8 日 (金) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 0 0 分
場 所	扶桑町役場 2 階 大会議室
出席者	鯖瀬町長 澤木教育長 千田 (ま) 教育長職務代理者 千田 (正) 教育委員 熊崎教育委員 江口教育委員 仙田教育部長 奥村学校教育課長 寺谷学校教育課指導主事 上田学校教育課指導主事 松原生涯学習課長 事務局 兼松総務部長兼秘書企画課長 社本秘書企画課統括主査 傍聴者 なし
議 題	1. あいさつ 2. 協議事項 (1) 部活動の地域移行について (2) タブレットの更新について 3. その他
内 容	1. あいさつ 今朝は本当に涼しくなりまして、一気にもうコートがいるような状況でございまして、急にそういう準備をしなければいけないなというような冬の装いが進んできました。そんななかで先日衆議院の総選挙がありましてちょっと自民党、公明党の連立政権が我々どうなっていくののだろうかと非常に心配しております。本当に地方にも大きく関わってきますので選挙のときには、例えば給食費を無償化しようという、そういう声が非常に各党からも出ておったのですけども、終わってからは今、所得の 103 万の壁を見直そうというような議論の方がちょっと大きくなっていますよね。そうすると地方も国もちょっと財源不足ということになってしまいますので、それが実現したときに、逆にもうその給食費の無償化な話は消えてしまうのかどうなるのかというようなことが起こってくるのではないかと私は思っているのですけども。可処分所得が増えることはいいことなのですけども、増えてから給食費もそのまま払ってもらおうということになりかねないですよ。これ本当にちょっとその辺がどうなるか注目をしておるところでございまして。

またアメリカの大統領にも変わりますので、この影響はまた日本に大きな波となってやってくると思っております。いずれにしても本当にこの少子高齢化社会の中で、子供たちをどう育てていくかということは非常に大きな我々の責務だと思っております。そういったことをしっかり我々地方で、町でできることをしっかりやっていくということに尽きると思いますので、また皆様方のいろんな声を聞きながら町政を進めてまいりたいというふうに思っております。

今日の議題でございますけれども部活動の地域移行についてとそれからタブレットの更新について議題としております。よろしくお願い申し上げます。

部活動の地域移行に関しましてはこれまでの経過とで今後の予定について説明をさせていただきたいと思っております。

それからタブレットは令和２年度に導入したのですが、小中学校のタブレットが令和７年度にもう耐用年数を迎えることになっております。

今後のそのタブレットの更新についてですご説明をさせていただきますので、皆様方からのご意見をいただきながらご協議をさせていただきたいというふうに思っております。

この扶桑町、先月末もまだ３万５０００人の人口を維持しておるところでございます。頑張っておるところでございます。そういった中でもやはりこの子どもの数は減ってきておりますので、しっかりと定住人口を増やす定住政策も含めて、子供の教育の視点からですね、多角的な視野を持って色々な政策を進めてまいりたいというふうに思っております。

今日は限られた時間ではございますけれども、こういったことにつきまして皆様方のご意見を頂戴したいと思っておりますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いしたいと思っております。

また先ほどちょっと触れましたけど明日柏森小学校と高雄小学校の午前中運動会です。天気も何とかそうです。また１０日の日曜日、児童センターの方で児童センターまつりというのがございます。またお時間ございましたら、ご高覧いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは本日はよろしくお願い申し上げます。

２．協議事項

（１）部活動の地域移行について

（議長（鯖瀬町長））

協議事項に移ります。（１）部活動の地域移行について、事務局より説明をお願いします。

（生涯学習課長）

生涯学習課の松原と申します。よろしくお願ひいたします。協議事項の部活動地域移行について説明させていただきます。

扶桑町地域クラブ活動推進事業は中学校の部活動の環境を学校単位から地域単位へと移行していく事業で、令和５年９月より、NPO 法人わっとらくらくスポーツふそうに委託し、開始しました。

令和５年度は５種目６部活動、令和６年度は８種目１２部活動に部活動指導員を配置し、土曜日日曜日祝日の中学校の部活動を学校から地域へと移行し始め、顧問が不在で地域の指導者のみの練習を実施している部活動もございます。

令和７年度も引き続き地域移行に取り組んでいきますが、新しく地域クラブとしてランニングクラブを創設し、運営をわっとらくらくスポーツふそうに委託したいと考えています。

令和８年度末からは土曜日日曜日酒祝日の学校の部活動は実施なくなり、地域クラブの活動になります。

詳しくはお手元にごございます別紙１別紙２にありますので少しお時間をいただきたいと思いますのでお読みいただけますでしょうか。

（上田学校教育課指導主事）

では失礼いたします。別紙１をご覧いただければと思います。

具体的に別紙１はスケジュールを中心に入れさせていただきました。上記にあたる場所は、令和６年度７年度８年度９年度をこのような形で実施をしますと色別に分けてありますが、基本的には水色のところに関しては、今までの部活動をイメージしていただければ結構です。緑色のところはいわゆる令和８年度の３年生引退後からの地域クラブになる前の地ならし期間を示しております。黄色に関しては、地域クラブを示しております。平日と休日に関しては分けてありますので、基本的には国の意向のもとに、休日の部活動をまずは地域移行地域連携ということで現在進めております。

移行期間における対応に関しては、こちら別紙１別紙２に関しては、保護者の方に配布する資料となっておりますので、現在お子さんが何年生のときにどんな対応になるのかを具体的にわかりやすく図式化したものになります。

また、別紙 2 に関しては、いわゆるイメージ図を元に作らせていただきました。

年度ごとに枠を決めさせていただいて、令和 6 年度、本年度に関してはそのような形で地域の方々から中学校に指導者を派遣していますよと。そちらの部活動指導員という形で、町の会計年度任用職員として任用しそちらの方々を中心に、土日の部活動を部活の顧問なしで活動をしているという状態になります。

令和 7 年度、来年度に関しては、下記に書いてあるようにわっとらくらくスポーツふそうさんを主体に指導者を兼職兼業の教員の方々も含め、指導者を派遣し、ステップアップ期間という形で実施をしていく予定です。

裏面をご覧ください。理念が令和 8 年度に関しては、基本的にはそちらは 3 年生の引退後のイメージ図です。地域クラブとして部活動から移行して、そちらのように指導者を派遣するという形になっております。

最終的に令和 9 年度以降で目指す姿としては、みんなが広い世代で、スポーツ、文化を楽しめるような生涯的なものを目指すという形で、皆さんで楽しめるような環境を作りましょうという形で一体的に整備をしていきたいなという形で、そちらの方の資料を作成させていただきました。概要としては以上になります。

(議長)

説明は以上でございます。この議題につきまして、私の感想を言っではいかんかもしれませんが、この件に関しましてはもう数年前から私も議会の方で教育委員会の説明を何回も聞いております。ただ、私どもの年代の者からするとなかなか理解しづらいなっていうところもございますが、教員の方の働き方改革も進めなければいけないという中で、地域のスポーツクラブはもう相当前からこういったことを想定しながら、町としてもそうやってできた団体でございますので、やはりそういった社会の変化ということもございまして、しっかりと今後も子供さんたちがこういったスポーツ、それから文化活動に、しっかりと中学生の時代に携わるようにしていく義務がございますので、そういったことをスケジュールも含めて、町の簡易型推進プランの方を今日ご説明させていただいたということになります。

ただいまの部活動の地域移行につきまして、委員の皆様方からご意見、またご質問等がございましたらお願いしたいと思います。

(江口教育委員)

はい、よろしくお願いします。私は保護者負担というところについてなんですけどこれまでの部活動では、保護者の負担がない中で平日休日ともに部活動をやってきたのですが、令和8年度の9月以降休日の地域クラブに参加するには受益者の負担がある、出てくるということだと思うのですが、クラブによって練習試合とか大会とか活動内容も変わってくるのかと思うのですが、保護者としてその負担というところですよごく気になる場所だと思うのですが、その内容について詳しく教えてください。

(上田学校教育課指導主事)

受益者負担についてというところですけども詳しくという形でご説明させていただきます。

別紙の2のイメージ図の中にこちらの保護者に配布用で作成させていただいたものなのですけども、そちらの令和7年度の枠のところのQ&Aのところをご覧ください。

そちらの1個目のところに、値段設定としては、年会費4000円、1回当たり500円という形で値段設定をさせていただいております。

こちらの目安として他の自治体の例をもとにわっとらくらくスポーツふそうさんと話し合った上でこのように設定させていただきました。現在わっとらくらくスポーツふそうさんとしては中学生に関しては年会費4000円という形でスタートをしているというところになっておりますので、そちらで、年会費で保険だったりとか、あとは今ICTを使いまして部活アプリというアプリを使って部活の管理をしているのですけれども、そちらのお子さんの負担だったりとかも考えております。

またそれ以外に協会の登録費とか、そちらに関してはそれぞれの競技によって違ってくるようになりますので、そちらは別途という形になりますが、協会登録費に関しても試合に出る出ないのところに関してもありますので、保護者の方々と相談をした上でそれぞれの種目に合ったような形で受益者負担をお願いしたいなというふうに思っております。

以上です。

(江口教育委員)

全てランニングクラブに変わっていくってことなのですかね。

(上田学校教育課指導主事)

ランニングクラブとして来年度スタートはしていくのですがけれども、実際に国の実証事業を基に実証しまして、値段設定がどのなのかというところで、ランニングクラブを実際にやってみまして、令和 8 年度のところは今のところ 4000 円で 500 円という形なのですがけれども、実質それを運用してかないといけないものですから、それが本当に設定値としていいものなのかっていうところを 1 年半かけて考えていった上で、できるだけ安価な状態でできる環境を整えていきたいと考えております。

(議長)

その他の委員さんから何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

(熊崎教育委員)

よろしく願いいたします。ちょっと飲み込みが悪くてごめんなさい。年会費を、4000 円を 1 人当たり支払いますよね。1 回 500 円というのは、年会費は入会金みたいなことですか。

(上田学校教育課指導主事)

はい。

(熊崎教育委員)

参加するごとに 500 円ずつ毎週あれば 2000 円が 1 ヶ月分ということなのですね。掛ける 12 ヶ月分になると。わかりましたありがとうございます。

もう一つが、協会の登録日や大会の参加費やというふうにして加算されていくと細かい数字は難しいかも知れませんが最大どれくらいになりそうなのでしょう。

(上田学校教育課指導主事)

今ところ年間大体土日の部分を毎回活動するとなると、大体 50 週から 52 週ぐらいになるのですがけれども、単純計算で 500 円かける 50 週、年大体 2 万 5000 円でそれに年間 4000 円、だいたい 3 万円。ただ、競技によって協会登録だったり、チーム登録や個人登録費だったり、それぞれの種目で変わってくところもありますので、一概には言えないのですがけれども、年間として登録費が大体 1 万円だったりとか、試合だと、水泳だと僕は水泳が専門なのですが、水泳の個人負担が一回出るのに何千円とかもありますので、高いものでいくとそのような形で到達すると大体年間 5 万円ぐらいになるのかなと思います。

(議長)

他に意見ありませんでしょうか。

(千田(正)教育委員)

中学校のこの部活動の移行については、ちょうど2年前のこの会議で話題になりました。そのときにしっかりと進めていくってということでお話しいただいて大変心強く思ったのを覚えております。その後、町として新たに指導主事を1人増員していただいたり、それから生涯学習課と学校教育で連携して検討会議なんかも何回もやられると、それからわっとの方に委託金を予算計上していただいて指導者の方の確保にも努めていただいたってということで、本当に順調に進めていただいているってということで感謝しております。

この問題は、どこの自治体でも、それぞれの状況に合わせて進められていると思うのですが、特に扶桑町としての特徴というか、力を入れているっていうところとか、そういったことをちょっと紹介していただけるとありがたいなと思います。

(上田学校教育課指導主事)

こちらに関しては大きな特徴として扶桑町の規模的に二つの中学校それぞれに対して、二つの小学校という形でとても規模的には二つの部活動が一緒になって地域クラブとなるっていう未来予想がある意味規模感としてしやすいっていうところだったのですが、逆にしやすいからこそ子供たちの部活動に対する気持ちだったりそこで活躍する子たちの気持ちをできる限り持続させてあげたいなっていう、自分も部活動を長年どんどんやってきたものですから、そこに対してやっぱり子供たちにとって良い形で移行してあげたいなと思っております。

それに向けて他の大きな自治体に関してはもう土日はやりませんよ、それぞれで地域クラブに行ってくださいねというふうなことでしかやれないところも多くあるにはあるのですが、扶桑町としましては、今現状、二つの中学校にあるそれぞれの部活動に指導者を各中学校に派遣しまして、例えば扶桑中学校の女子バレー部に1人部活動指導員を配置、扶桑北中学校の女子バレー部のところに部活動指導員配置。そうするとそれぞれの部活動が現存した状態で、2人の部活動指導員が連携をして、子供たちの部活動がいつの間にか地域クラブになって、二つの中学校の部分がみんなでやれるような環境になったよ。そういうふうにやっていると、今まで子供たちが部活動をしていたという環境が大きく変化する形ではなく、部活の形も整った状態でさらに広域的に子供たちが他の学校の子たちとか交流もできる。部活動の選択肢

もそうすると、この中学校にはあった部活動がここに北中ではそれができなかったのですけれども、地域クラブとしてなっていけば、その選択肢も出てくるという形で、子供たちの選択肢も広がっていきけるような環境を作っていきたいなというところが扶桑町としては大きく大切にしてきたところです。

さらに将来的にはやっぱり子供たちが将来的に居場所としていられるような環境を作っていくところが一番大切にしていたものですから、あぶれていく子たちがいないような形で現存の状態をキープした状態で地域クラブにしていきたい。

こちらが扶桑町として一番大切にしてきた方針であります。

以上です。

(議長)

他に意見ありませんでしょうか。

(千田(ま)教育長職務代理者)

だいたい扶桑町の未来図が描けたかなと聞いておりました。私からはですね、古い今までの部活の業態が本当にガラッと変わる、変わっていく過渡期に当たると思うのですけども、その点に関して質問したいのですが、その保護者さんへの理解がどのように得られるか、受益者負担のお金の面だけでなく、なんていうのでしょうか、今まで安心して先生に丸投げっていう言葉はちょっとあれですけど、おまかせで、先生方の家庭を犠牲にしての献身的な本当に努力というかそれが当たり前であるかのようにもう 50 年も 60 年も、私の子供の頃からですから私で 50 年もあるということは、もっと上の世代だから行くと 60 年も 70 年も延々と続いてきたものが、スポーツ根性みたいな感じで続いてきたものが、外部の先生に教えていただくっていう全くガラッと生徒さんにとっても保護者にとってもすごく本当に変わっていくことだと思うのですね。平日は勤務時間内ということで、当然無償でしたし休日はかなりかなり、もう本当に微々たる金額の報酬で今まで実施してきましたのでした。

だからこれを切り崩すっていうハードルが別に実際全国否応なく始まってしまえば、親さんたちはそんなものかなと抵抗なく受け取ってくださるのか。このハードルの高いこの移行を、理解をスムーズに得るためにどんな対応をお考えになっているかということと、今この資料を見ていて思ったのですけども、その手を挙げてくださる兼職兼業の先生方も、これは生徒にとっても保護者にとってもその指導されている現役の先生方にとってもすごく

激変というか感覚的にも変わることなので、先生方の理解もスムーズなふうに受け取られているのか、ちょっとその辺も何か職員室でどんな会話をされているのか。

兼職兼業で僕も手を挙げる私も手を挙げるって言ってどんどん言ってくださっている状況なのか、子供たちのこれからの心構えというか身構えというか、外部の先生に自分たちは外部のエキスパートの先生に部活を教えてもらうのだっていう心構えと、保護者のその受益者負担を含めたその外部の先生に子供を任せるっていう不安ってというか期待というかと、現場で今まで非常に汗を流して頑張ってきた先生の、その移行していくときの気持ちというかそういう情緒的なものだけではなく、ガラッと変わる、この70年近く続いたものがこんなに変わるっていうことに、皆さん世間のメディアでもずいぶん放送されてるいので、まあそんなものかなと、いたってスムーズに受け取られているのかどんな感じなのかというところが教えていただきたいです。

(上田学校教育課指導主事)

今言っていた件に関しては子供のたちの捉えだったりとか保護者様の捉えだったりとか、あと教員の捉え、そちらにどう理解していただくかっていうところなのですけれども、1点粘り強く本当に説明をするっていう、本当にそれに尽きることだと私は思っております。

実質もちろんその中でさらに地域の方々の捉えというところもあるのですけれども、検討委員会の方で自分が出させていただいたときに、地域の方々そしてスポーツ推進委員だったりとかいろいろな方々がPTAの方々、学校の方々ややっぱりいろいろなご意見をいただくのですけれども、やっぱり心配は尽きるころなのですが、そちらに関してはやっぱり本当に真摯に一つずつご説明をさせていただいて子供たちにとってどんなものか、またあとは自分たちの生きてきた部活動のイメージを大きく崩さないといけないっていうところの部分もマインドリセットという形でも保護者を含めて皆様にご説明をしないといけないところも大いにあるというふうに思っております。

特にやっぱり今まで払ってなかったゼロから生まれるっていうところはやっぱりかなりハードルが高いものですので、100%ご理解をしていただけないかもしれないのですけれどもお金を払うのだから、こんだけいいものがもらえるのだよっていう、費用対効果じゃないですけれども、そちらの部分に関しても、やっぱり今

までは専門じゃない顧問の先生が指導されていたところが、実は部活動の顧問をしたいから先生になったという方もいらっしゃるので、兼職兼業のやる気のあると言っちゃあれなのですが、専門性を知っている先生にやっていただいたりとかっていうところも、この両中学校に自分がプレゼンをしに行って説明をしたときには、先生たちのご理解も質問を受けるのですが、基本的にはそのような環境の中で自分たちはやっていきたいというふうに前向きに捉えていただいている先生方も多いというように感じておりますし、現状子供たちもそのような空気感を感じているところもあると思いますので、その部分に含めて地域の方々の指導者の熱とかもやっぱりそちらも受け取った上で、その環境を設定していくのが大切かなと思っております。

以上です。

(千田 (ま) 教育長職務代理者)

ありがとうございます。やっぱり長年のところから変わるっていうところにね、苦労が既にこれだけタイムスケジュールがね、ここまで基盤が作られていることだけでも本当にずいぶん大変なことだったなと思います。この結構短い時間でここまで進んでいるので、なので本当にね、さっきおっしゃったように粘り強く理解を求めていって、外から変わっていくことで、だんだん親さんも子供も指導者の先生も受け入れていって、それがなんていうのでしょうか、事故もなくなていうのだらう、そういうあまり軋轢もなく、うまくいけるようにそれぞれの担当者の皆さんがお互いに競技をしっかりと子供に教えていこうっていう、人間形成していこうっていうところに目標があればそんなに揉める話でもないと思うので、素晴らしくそちらへ向かって、子供もエキスパートの先生に引っ張られて競技がやっていけるといいなと思います。

ありがとうございます。

(澤木教育長)

ちょっと今の関連で付け足しさせていただきます。

文科省から出てきた部活動の地域の移行が、令和 3 年 4 年ぐらいから徐々に私達のところにいろんな通知文やガイドラインがおりてきたときは、もうこんなこととても進めるのは重い課題でありまして、先ほどから話題になっていますように日本の文化、中学校の部活動というのは日本のこの教育、中学校教育の文化になっておりまして、これを打ち砕くって非常に難しいのですけど

も、進む少子化、働き方改革も含めて新しく舵を切るということが決まってから最初はすごく推進委員会でも検討委員会でも抵抗感がありまして、どうなるのですか、子供たちはどうなるのですかということで、もう本当にワークショップをしたのですが、けんけんがくがくだったのですが、徐々に4年度、5年度で理解が進みまして、社会的にもこういうことになっているっていうのが少し浸透してきたように思います。こちらもう腹を決めてスケジュールをパチッと決めないと進めていけませんので、こうした明確な指針を出して、もう地域の方も保護者の方も行政の方々も議会の方々もご理解していただけるように。本当にキーワードは粘り強く繰り返し発信を続け、こういう文書を出したり、広報に出したり、いろいろな部分で醸成してきたつもりでございます。

まだまだ広く浸透はしておりませんが、3年前から比べればずいぶん一般の保護者さんにも入学説明会やいろんなPTAの総会などでお伝えしていますし、地域の方々にもご理解がいただけてきたのではないかなというふうに思っています。3年前よりは進んでいる。

それから先生の中にももう兼職兼業になっていくということや不得意な先生は自分が教えるよりもそういう地域の方にとというような気持ちも進んでいます。

何割ぐらいがあの兼職兼業を希望していましたかね。

（上田学校教育課指導主事）

現状アンケートを行っていただいて小学校の先生としては、現状は5名です。

中学校先生方としては現状13名の方が手を挙げていただいております。現状全員が入っていただけるかどうかっていうと、これからいろいろ面談をさせていただいて、どれだけやっていただけるかわかりませんがそのような形です。

（澤木教育長）

思ったより少ないと思われたのか思ったより多いと思われたのかそれぞれだと思うのですが、それが現状でございます。

だから、ぜひクラブ続けたいっていう人ばかりではございません。そういう数値が出ております。ちょっと付け足しさせていただきました。

（議長）

熊崎委員、よろしくお願いします。

(熊崎教育委員)

失礼いたします。熊崎でございます。今まとめて、この部活動の地域移行のことについてお話を伺い、また委員の皆様のご意見も伺ったところですが、率直な感想としてはこれまでも出ていたように、きちっと整理をされて歩みを進めてきていただいているなということに感謝を申し上げますし、敬意を表したいと思います。そうした中で、長い歴史とそれからいろんな多様な考えがある中で、この方向を進めていこうとするにあたっては今後もいろんな生みの苦しみはあるのかなというふうにして思いますが、今、一つ形としてスポーツ系の話題はお聞きをしましたが、文化的な活動これもまた生徒たちのいろんな中心の活動になっているわけでそういったあたりのところ、この今後の見通しというか方向性がどんなふうになっているのかというのを教えていただきたいと思います。

それから、中学校がこの部活動の長い歴史の中で担ってくるにあたって、部活動と学校教育との中の両面の中で教育的な視点や配慮も部活動の中に入れながら、例えば具体的な例でいくと、選手起用のあり方についても勝利至上主義で選手起用を実施しているばかりではなく、その1人1人の成長に合わせた場面での選手の起用の仕方を各顧問苦心して、3年間を充実した形で終われるようにというようなこともしてきていたかというふうに思うのですが、そういったところを今後の移行に当たって指導員の方々と、どんなふうに将来を見据えて考えておられるのかというのが2点目にお尋ねしたいところです。

それから、最後3点目ですが今これを入口のところでのどんな形で地域移行しようかということですが、10年経ち20年経つと、そこで活動していた中学生たちが今度は社会人になって、地域の中でいろんなスポーツを繰り広げていく。そこでまた新しい子供たちが中学生になり活動を繰り返していく。そのちょっと先のことを言いすぎかも知れませんが、どんなイメージを持っていってほしいのかというのがもしおありでしたらば教えていただきたいと思いますこれが3点目です。

(生涯学習課長)

一点目について私からお答えさせていただきます。先生おっしゃいましたように文化部というところもございます。我々としては、生涯学習課としてはスポーツクラブに限らず、文化部についても広げていきたいと考えております。現在文化協会には31の

団体がございまして、いろんな年齢層の方がいらっしゃいます。団体によっては年齢層高いところもありますので、中学生が地域クラブという中ではないかもしれないのですが、居場所作りという中の一つとして文化協会に入っている文化部の中にも入っていただけると、いろんな世代の方の交流が広げられていけるといいなというふうに考えております。

また、そのことにつきましてはまた今後、文化協会やわっとと協力しながら、時間をかけてですが協議していきたいと思っております。

以上です。

(上田学校教育課指導主事)

失礼いたします。2点目の選手起用とか、そちらの教育のところの部分についてご回答させていただきます。こちらに関しては指導員、補助員として入っていただく方々への研修を本年度は2回行いました。4月に関してはいろいろ手続き等のことも含めてなんですけれども、もちろん勝利至上主義と教育的な論理、この競技と教育の両立をしていくってということについては、やはり専門的なところに関しては先生という立場で部活を運営していたところなので、教育の部分が多くあったので選手起用だと、あの子出ていないから次この子に出させてあげようだったりとかもあったのですが、そちらに関してもその研修会のところでお伝えさせていただいて教育なところはお願いするわけではないですけれども、そちらに関しては勝利ではなく、スポーツだったり文化を楽しむような指導をお願いしますというふうにお伝えさせていただいております。

またスケジュールとしては、令和7年度にあたるのですが、ステップアップ期間の際に指導として指導者として入っていただく方と、部活動の顧問として入っていただく方、こちらの方で1年間実質一緒にやっていただいて、こういう場合にはこういうふうにご子供たちに声かけてくださいだったりとか、そういう部分でいろいろな教育の面をお教えいただけるような形でお願いをしていくという形で進めていこうと思っております。

3点目の子供たちが社会人になったときの部分も含めて今後の構想としてのイメージ図ですけれども、実際に資料としては裏面の令和9年度以降で目指す姿という形で上げさせていただきました。今はどうしても過渡期という形で、部活動の地域移行に向けて指導者を立てるとか、そこで責任は誰が負うのかとか、いろん

なところであるのですけれども、そちらに関しては現在地域学校協働活動だったりとか、地域の方で子供たちを育てるっていうところの部分と連携していった上で、本当に子供たちが楽しめるような場を提供するっていうような、根付くような形でそこに成長していった高校生大学生の子たちが、後輩になる子たちに対して、この楽しさはこうだよっていうふうに伝えていけるような環境を整えていきたいなと思っております。

こちらの別紙1の方の下スケジュールを見ていただくと、部活動が引退後、希望者は指導者として活動ができるよう整備を作って高校生になって、どうしても公立高校も部活の地域移行が今後進んでいくことになりますので、その子たちも居場所として高校生になってもあるような形で地元に戻ってくるような環境を整えていきたいなと思っております。

以上です。

(熊崎教育委員)

ご質問ということではないのですが、保護者の方が一定程度負担をしてこの活動に加わってくださるわけで、やっぱり負担したらした分だけやはり我が子というか、自分の子たちがどういうふうに育っていくか、それからどんなふうに関心を持っていくかというのには興味のあるところだと思うので、そのあたりで保護者の方の理解もよく、重々ご説明しご理解いただかないと、ある子は選手として起用されてたくさん試合に出られた。ある子はなかなかそうならなかった。単純に実力ということを物差しだけでは割り切れないところも今後出てくるのかなというふうにして思うものですから、これまでは学校教育という中で、学校がそれを判断しているのだろうと受け止めてくださっていたところが、そうはならなくなるところもあるのではないかなというふうに若干の危惧、懸念をするものですから、これは意見としてそんなこともあるのではないかなというふうに思いましたので付け加えさせていただきました。

(議長)

その他にこの議題についてございますでしょうか。

(澤木教育長)

この地域への部活動の移行については本当にいろんな課題がありまして、悩みながらここ何年間やってきたのですけれども、文化部のことについてはさっき生涯学習課の課長さんがおっしゃったように、既存の文化協会の活動の中に、年齢層の違う中学生が

入っていくってというようなのを展望的にはあるのかなと思いますながら、この間の文化協会の発表会や活動発表会とか作品発表会を見させていただいて、ちょこちょこリーダーの人にここに中学生が入ったらどうなりますかねというような話題も振ったりして。ウェルカムですよって若い子来てほしいのです高齢化が進んでいるからってというような話もあったりして。これは全くない話ではない。今まであるものの中に一応中学生が居場所として入っていたく、そういう話をしていたら、料理なんか私教えてあげるから、家庭科クラブの文系があれば、いつでも出前授業しますよって言うてくださる地域の方もいらっしやったりして、やっぱりスポーツと一緒にいろいろじっくり粘り強く、進めていくうちに開けていく。

最初は部活動の指導者はこんなふうに集まるというふうにも思ってもいなくて、一番指導者の確保が大変だということだったのですけども、県の方はマッチングアプリで指導者派遣しますよっていうアプリ作ってくださったのですけども、私どもの教育委員会そういうことはあまり考えておらなくて、やっぱり扶桑町の総合計画のように、みんなで学び合う育む時代と豊かな心を育むまち作りというようなキーワードを掲げておるものですから、やっぱり地域の方に育てていただきたいという気持ちが強くて、既存のもので、その中で手を挙げてくださる方を粘り強く草の根のように発掘しながらいくということが大事なことかなというふうに思っています。あの教育的という面が話題になりましたが、先生たちは教師ですのでそういう配慮をいつもしているわけなのですけども、ちょっと視点を変えますと、今の子供たちは異年齢の方との触れ合いが核家族で少ないですし、兄弟も少ないですから、弟妹とか一人っ子ふたりっ子ぐらいでたくさんの中でこの異年齢の子の付き合いというのを非常に機会が少ないと思うのですね。ですので地域の中で異年齢の人たちが触れ合う機会ってというのが、今コミュニティがコロナでちょっと崩壊しているっていうかいろんな行事も減ってきたりしていますので、そういう中に中学生も入れていただいて、そういう異年齢のふれあいが教育的っていうのには欠けるかもしれないのですけど、親とは違う大人とのふれあいというものも、とてもそれは勉強、生きてく上での勉強というか、親じゃない先生じゃない人から学ぶ、触れ合うっていうこともある意味値打ちのあることではないかなと発想を変えて思います。10年後を長期に渡って子供たちが扶桑町のどこかで中学生

が溺れてしまっても変な方向に行くのではなくて、どこか居場所を自分の得意なことで、居場所はあればいいなということで、そういう居場所作りという意味で、地域クラブ、それから文化協会の中に混ぜていただくかどうかわかりませんが、文化的な活動も地域の方とともに出来るってことをイメージしています。

そんな形であるコツコツとやっていかなくちゃいけないので、始めた頃もどうなるかわからないと言いながら、本当に地域の方々の力とか手を挙げてくださるのが思ったよりも多かったものですから、ありがたいというふうに思っていますので、学校運営協議会とか地域学校協働活動も進んでおりますので、大きな視点で地域ぐるみで育てていくってところがベースとして、皆さんで共通理解になればいい活動になっていくのではないかなど。かなり理想論ですけども思っております。付け足しでした。

(議長)

この件に関しましては議会の方とかでもいろいろとご質問いただいておりますのでございまして、今の子供さんの保護者はもちろん従来の部活動で過ごしていらした世代ですので、非常にまだまだ会議でも出るようにいろんな不安とか質問等疑問がたくさんあるかと思っておりますけれども、もうこれやはり上田先生がおっしゃったように大きくイメージをもう崩さないといけないというのが正直なところでございますので、しっかりと保護者の方に理解を求めていきたいと思っております。私としましても非常にこの扶桑町の2中学校とか、コンパクトさを生かしていただいて良い形で地域クラブの方に移行して、大きな環境変化ないような感じでやっていけたら、本当に私としてもありがたいなというふうに思っております。この点は本当に私も教育委員会の皆さんにも感謝をしたいなというふうに思っております。ただやはり受益者負担という問題はこれもまた大きな話題になってくると思いますが、これにつきましても議員さんの方から私の方に質問を議会の方で、いただいております。なかなかこれが難しいところでございまして、クラブ活動以外に一般論として、受益者負担っていうのはある意味これは公平な面もございまして、そのサービスを受ける方が一定の負担をしてくださいますよと。ある意味全ての住民の方が受益を受けるものにつきましても100%税金でやりましょうというような考え方は、もうこの基礎自治体としては当然の考え方がございまして、そこへたまたまクラブ活動の

クラブ地域移行が入ってきたわけでございますけども、この点につきましてもしっかりとまた説明をさせていただきながら、これは多分もう日本がこういうふうにならなくなっていくということでございますので、そういったこともお話をさせていただきながら、ご理解をいただけるように私の方からお願いをして参りたいなというふうに思っておりますのでございます。

またこの件に関しましてはご質問とか、保護者の方いろんな方からもしご意見等ございましたら、また私なり教育委員会の方にお寄せいただければというふうに思っております。よろしくお願いを申し上げます。

(2) タブレットの更新について

(議長)

(2) タブレットの更新について、事務局より説明をお願いします。

(学校教育課長)

学校教育課の奥村と申しますよろしくお願いします。タブレットの更新についてということになります。先ほど町長の方から挨拶の中でもう言われたのですが、コロナ禍をきっかけに急速に全国の自治体にギガ端末の導入や校内ネットワークの整備が進み、当町は iPad を選定し、令和 2 年 12 月に導入しました。

端末の耐用年数は 4、5 年と定義されており、令和 7 年 12 月に端末の 5 年の耐用年数を迎え、更新が必要となっておりますので、令和 7 年度予算にて計上するように進めております。

国も、GIGA 第 2 期として、更新を進めるように動いており、補助としては 1 台当たり 5 万 5000 円の 3 分の 2 としております。ただし、補助要件として共同調達による端末の調達、教職員分の指導者用端末の整備、児童生徒が利用する端末を対象とした Web フィルタリング機能の整備や高速ネットワーク、教育支援ソフトの整備が必須となります。

予算としましては、3215 台を 5 年リースで行い、年間としては 5200 万円ほど必要となります。また、各学校を結ぶネット回線についても、高速ネットワークの速度を確保するため、現在 1GB となっているところを 10GB の帯域確保型とするように工事費として 870 万円を予算計上するように今進めております。

以上になります。

(議長)

説明は以上でございます。ただいまの教育支援センターにつき

まして、委員の皆様方からご質問ご意見等ございましたらお願いをいたします。

（千田（ま）教育長職務代理者）

よろしくお願いします。千田です。すごい多くの予算、ちょっと全体の金額を今お聞きして町の財政はいいのかなと今思いましたが、それで予算をかけて更新をこれからしていくってことで、これがまた5年ごとにこれだけのお金がかかっていくっていう教育予算を担保していかなきゃいけないっていうことは地方財政としては大変だなというふうに思いました。

それで、今もうこれで5年近く、1人1台端末から子供たちはもう導入してきているのですけれども、現存のその端末が埃をかぶってないか、どれぐらいの活用をされているかという点について、この5年間近い変化について教えていただけたらと思います。

（寺谷学校教育課指導主事）

失礼いたします学校教育課指導主事の寺谷でございます。私の方から今のご質問回答させていただきます。

5年たった今どのようなGIGA端末の活用の状況ということでご質問いただきましたけれども、まず令和2年にGIGA端末が学校に入ってきた当時のことですけれども、本当に新しい。子供たちも興味津々ですし、先生たちもまず触ったことがないそういったところからのスタートでしたので、まずは触って、その慣れてみようという。本当にスイッチを入れるとかそういう基本的にごくごく基本的なところからのスタートでした。

それがコロナの影響もありまして、なかなか学習活動そのものに制限がかかった時期が長く続いておりました。

ですので、パソコンと同じようにインターネットを活用して情報収集するとかそういったことを、カメラ機能を使うそういったことには活用しておりましたけれども、それ以上になかなかうまく使えなかったなっていうことが数年続きました。

今現在この新型コロナウイルスも5類に移行されて、教育活動に対する制限もほぼなくなったのですけれども、その間にいろいろコミュニケーションツールとして活用を進めてまいりましたが、これからというのが現状のところですよ。

当初本当にとにかく使えどんなことでも使えっていうところからスタートしましたので、些細なことでも、タブレット端末は使われていましたが、現在はちょっと使い方に慣れてきたからこそ

必要なときに必要な道具を使うというそういった感覚で、タブレット端末もうまく文房具として機能しているかなというそういう状況を感じております。

以上です。

（千田まち子教育長職務代理者）

ありがとうございました。時々学校訪問などでも R2 から始まってずっと見させてもらって一番最近の学校訪問でも感じたのですが、だいたいいろいろな先生方が授業で生徒に使いこなすところまで来て広がってきたなということは、ちょっとずつ見さしてもらって思ったのですが、本当にたくさんのデータとか数字とか数値を処理するとか、あと画像を取り込んでそれを見るとき、そういうツールとして非常に使いやすいものだなというふうなところはもう到達しているかなと思って見ていたのですが、一つ懸念があるのは、私が自分でそういうふうに使っていたことを、あるニュースというか、新聞記事だったかな。同じことを言っていたなと思ったことが一つあるのですが、かなり日本は大体遅れているのですが IT 関係が、かなり進んだ国でちょっとどこの国か忘れたのですが、かなり進んでしまっているけれども、そういう IT とかそういう端末機能に、もう進みすぎていて意外にそのいろいろな学習の習得が何て言うのですが、染み込んでないっていうか、もう 1 回紙に戻ろうっていう。中国だったかな。なんかそういうことを読んだのですね。本当にそうだなって私が懸念していたことをやっぱり思う人いたのだなと思って。それが何年間か IT 教育に邁進してきて、そこに今立ち返って戻っているっていう。

だからツールとしてそのたくさんの数値を処理させる機械として使うとか、画像を取り込んで、例えば一例で言えば平和学習やっているとときに沖縄の基地の周辺に住んでいる子供たち、あの騒音の中の授業でやっている子たちと、画面同士で話ができたら、ディベートができたら平和学習なんて本当に現地沖縄まで修学旅行で行かなくて、もうそのまま取り込んで話ができると思うのですね。

だから気象の変化でも北海道のことをすぐ画面で喋ればもうそれも生かせる。本当にもう時空を超えて世界の各国のことで、多分ディベートもいろいろな現状もわかるのでしょいうね。だから、そういうツールとして 5000 万円のお金をかけてやっていくっていうことは素晴らしいと思うのですが、いろいろな習得した

学習の読書、そろばんというか計算でも、意外と端末機能を使ってやってきたことの定着がよろしくないという、今までそのデータを見てちょっと懸念を私も思って、やっぱりペーパーレスで全部文房具だけとして使えるかどうかというところに、私も疑問だなと。それぐらい習熟してからの話ですけれども、かなり進んできたところに、ペーパーでちゃんと学習の内容をきちっと定着させていくっていうのと両輪じゃないと日本の子供の学習は進まないのではないかと。私の懸念と今までのその国のデータを見たときに、そういうこともあるのかなと思ったので、またツールとして見つ、見ていただけるといいかなと思いました。

（寺谷学校教育課指導主事）

私もその記事見ました。確か私が見たのはデジタル教科書を持って元のペーパーの方に戻すというような動きがあるという。千田さんが言われるように私たちはタブレットが使える子供たちを育てたいわけではなく、あくまでも未来を生き抜いていくできる力をつけさせたい。学習であったり、そういったことが大前提ですので、そのターゲットはあくまでもそのためのツールということで、いわゆるおっしゃられるように、ここを間違えずに、あくまでも子供達につけさせたい力は何なのか。これをいつも自問自答しながら教育活動を進めていきたい。そのように考えております。

（議長）

その他にご質問ございますか。

（千田（正）教育委員）

先ほどの指導主事の回答にもちょっと絡んでくると思うのですが ICT の研修会の件でお願いします。今年の夏に扶桑町の教員対象の ICT 研修会を行われて私も他の委員さんと一緒に参加させていただいたのですが、自分自身も教員やっていましたけど、退職してからタブレットがずっと普及するっていうことで、どういふふうかなっていうのをさっきの千田委員と同じように学校訪問なんか行くときにどんなふうに使っているのかなっていうのを興味深く見ていたのですが、自分がいわゆるイメージしていたタブレットの使い方とその研修会で紹介していただいたタブレットの授業での活用方法っていうのはまたちょっと異なっていて、すごく新たな視点をいただいたなというふうに思いました。

ほとんどの扶桑町の教員が参加していたと思うのですがその中で先生方がどんな反応して見えたのかなということや、何か授業に早速活用された例なんかがあれば教えてください。

なと思います。

(寺谷学校教育課指導主事)

まず研修についてなんですけども、そもそも研修を行うきっかけになったことなのですが、子供が主体的に学ぶという、そういった言葉がもうずっともうこの言葉自体はもうだいぶ前から使われている言葉なんですけども、実際に学校の先生はそうにやっているかっていうと、やっぱり先生方は黒板の前に立ってチョークを持ち子供たちの方に向かって何か喋りかけて、子供たちは先生の方を見ながら手を挙げて発言したり、それから必要なことを、ノートを取ったりそういった授業スタイルから全然打破されていないのではないかと。そういったことがきっかけとなっております。そのこともあって今年度は子供に学びを委ねる、これを合言葉に、子供主体本当に子供が主人公となる学びを進めていきたい。そういったことがきっかけでございます。

今回研修なんですけども、文部科学省が行っているリーディングDXスクール、そういった授業でアドバイザーをしている先生をお招きして、研修講演をしていただきました。

このときにはタブレット端末は子供たち同士の意見を交流するための道具、そういった使い方を紹介していただきました。それをしていくと複線型授業と先生はおっしゃっておられましたけれども、子供たちがそれぞれの考えを交流させながら、あえてノートを見せに行くとかそういうふうではなく、離れたところでもあの子こんなことを考えているのだな、この子こんなことを考えているのだな、ここに聞きに行ってみようかな、そういった子供たちが主体的に意見を交流できるようにする、そういった授業作りを目指していきましょう。そういった講演の内容だったと思います。

4月から学びを子供に委ねるっていう号令はかけていたのですが、実際のところは、なかなか先生方、そうどういった授業をやればいいのかっていう本当に手探りの状況で、手探りであるがゆえに何も動けなかったのが現状だったと思います。

ただ、夏休みの研修を経て、具体的にこういった授業を目指せばいいのだということが先生方にも理解が深まってきましたので、ちょっとずつですけども、タブレットを使って、子供たち同士意見を交流したり、それから意見をまとめたり、一つその他タブレットを使って意見をまとめ上げたり、よく昔はホワイトボードで付箋を貼ったりして意見をまとめていたのですが、それ

を、タブレット端末を使って置き換えてやっていたりそういった授業が見られるように少しずつなってきました。そのようにタブレット端末の、ただただ調べる道具だとか、写真を撮るための道具だとか、そういったことではなく、そういったトークとのコミュニケーションではなく本当に教室内のコミュニケーション、そういったようなツールに使おうという気持ちが上がってきたかなというふうに感じております。

以上です。

(議長)

その他にご質問ございますか。

(教育長)

今寺谷指導主事が伝えてくれた通りなのですけども、実はこの研修会を開く前にどんな経過でここまで来たかっていうことなのですが、実は愛知県中の教育長の研修会が今年の2月にあったのです。名古屋城の能楽堂に全教育長集まってですね、この同じ講師の水谷先生というDX専門官が、同じ内容でプレゼンをしてくださったのです。

そのときに本当に衝撃を受けまして、要するにクラウドの中に子供がいろんな意見を入れるわけなのですけども、子供たちが自分と比べたり比べて違っていたり、同じだったり、実際はその子のところに行ってですね、こういうふうに考えているけど僕もこうなのだよってというような交流があって、本当に進んで授業やっている。それにタブレットが生かされているというようなことでやっていますよと、これからはこういう教育ですねっていうことを受けてですね、帰りの電車で考えながら、ぜひこの高森台中学校の実践なのですけども、高森台中学校に扶桑町のICT活用委員会のメンバーと、それから授業改善で教育課程委員会のリーダーを連れて、高森台に行行って実際に見せたいと思ってですね、春日井教育委員会にお願いして、割り込ませていただいて、行ってきました。本当に道具として協働学習をやってらっしゃる実践校。日本でも一番リードしているのではないかなと思うのですけども、近くの春日井ですので行こうということで連れて行きました。

夏休みにも来ていただいて、全職員にということですので。連れていたリーダーたちはもう既にそれぞれの学校で実践をし始めていて、夏休み全職員が聞いたことによって、このことですねっていうのでちょっと繋がってきまして、これから実践が進んでいくのではないかなというふうに思っています。

やっぱりせっかくこのお金をたくさんかけて、用意して下さった付与したタブレットを、有効にしかもそのツールとして子供たちが使う力をつけていくっていうのはとても大事なので、協働的な学習っていうところすごく感銘を受けた研修でしたので、いいふうに実を結ばないかなというふうに期待しております。

付け足しでした。

(議長)

その他にご質問ございますか。

(熊崎教育委員)

私も夏の研修会に参加させていただいて、先ほどの千田委員と同様にある意味衝撃を受けて受け止めた者の1人です。学校の教育がこんなふうに変わっていくのだなというのを感じた瞬間でもありました。

タブレットが子供たちに手渡されたことで、1人1人の学びに寄り添う学びが最適化されていくし、取り出せる資料も1人1人が違うものであったり、あるいは違うドリルに取り組んでいくことであったりというのは、当初自分も想定していたことの一つの学びですけれども、この間の研修ではそこに本当なら隣の子供同士としかお話ができない教室の中であっても、移動しなくてもいろんな子たちが何を今瞬時に考えているかをつかむことができるやり方がある。今この会議の中でも発言させていただいている間にいろんなことを思いなのが目の前で、それが今こう思っているよって。そうさそうさとか、それ違うのではないっていうのが、もう目の前で表現お互いがし合って、それからまた自分の考えを組み立てられるというような、タブレットでなければできないような協働的な学びもその中で実現されていく。だから、タブレットでなければならぬ学習学びがそこで成立をしていくということなのではないかなと。なので、タブレットを使った学びそれからペーパーを使った中で子供たちが育てていく力、これも大事な力がたくさんあると思うので、その辺りがベストミックスっていうか、上手に組み合わせられていくのだろうなというふうに思っています。

なので、子供たちがこれから未来を生き抜いていくのに必ず必要になる力が、この学校教育の中でタブレットを扱うことで身につけられていく。それがあある意味家庭の状況に関わらず、そういう施設設備の整った家庭、あるいはまだそれが準備の段階の家庭いろいろあるかもわかりませんが、状況に関わらず学校教育の中

で行っていく教育の中で、これが行われていることの意義はとても大きいのではないかなというふうにして思います。そういう中でこれまた過渡期の中の一瞬を切り取った場面だったと思うので、今後扶桑町の中でこういった端末をどんなふうにさらに発展させていこうかというような構想があるようでしたらば教えていただけるとまたそういった見方もしながら学校も見させていただけるかなと思います。

よろしくお願いします。

（寺谷学校教育課指導主事）

今の熊崎委員さんのおっしゃられた通り、本当にそういうふうに使っていくというのが理想としております。

先ほど申し上げました通り、未来を生き抜く子供たちに必要な力をつけさせたいということがあくまでも我々の目標ですので、タブレットを使ってコミュニケーションすることはあくまでもこれは手段でございますので、そこは間違えないようにしていきたいと思っております。もう本当に始まったばかりのお話で、研修でいただいたお話が、あちこちで見られるといいのですが、今現状はそれができる先生、やり始めたけどもできていない先生は、見よう見まねで何かそういうようなことをやってみようかなってというようなことを考えているところです。

ですので、遠い将来を見据えると、全部全ての先生がそういった協働的な学習に何の抵抗もなく、取り組めるということが目標ですが、現状まず近いところでいくと、やれる先生が情報発信をして、こういったふうにやると協働学習がやりやすい、そういったことを今広めている現状かなと思っておりますので、それを先生方が今試行錯誤しているところだと思っております。

先日の扶桑東小学校の学校訪問でも、一部の先生がそういった複線型授業というものを先生方なりの解釈でやられていたかなと思っておりますけども、それを全ての先生ができるところでやっていただくようになって最終的には子供が主人公となった学習それが展開できることが私達の扶桑町の教育の目標と今考えております。

以上です。

（澤木教育長）

あの寺谷指導主事が答えてくれた通りだと思います。子供たちにどんな力をつけたいかということと、タブレットの関係なのですけれども、新しい指導要領の中では最終目標はより良い学校教

育でより良い社会の作り手を育てていくっていうものを掲げております。

先ほども話題になりました個別最適化っていう言葉と、協働的な学習っていう言葉がすごくキーワードで指導要領の中でクローズアップされています。今一度ちょっと整理したいと思って自分でも頭でちょっと整理してみたのですが、個別最適化という言葉がキーワードになったのは、子供が学習者としての視点でこういう言葉ができてきたわけなのですけども、指導の個別化という言葉と、学習の個性化という言葉を両方くっつけて個別最適化という言葉が出てきました。

指導の個別化というのは子供たちの到達度とか理解度とか、いろんなものをその子自身の個別的な持っている条件の中で全ての子に学力、そういった技術を習得する部分を習得、身につけていく基本的には知識理解と技能の部分をしっかり支援していくという視点から言われた言葉で、習得部分ですね。

学習の個性化というのは子供たちが持っている体験とか興味関心。それに応じた探究学習、総合的な学習なんかに使われるのですが社会や理科もあると思うのですけれども、探求していくときにその子それぞれ興味が違うので、そういうものに応じた支援をしていくこと、そういう条件を満たしてあげることということで、個別最適化という二面性のあるものになっています。

それをするのにはタブレットは非常に有効な場面があるということで、タブレットを道具として使う。それはあくまでも手段なのですけども、何を育てるかっていうと、自分の力で学びに向かう、そして自己調整しながら、進めていく力なのです。

学びに向かう力っていうのは一番つけたいところなので、そのためにタブレットを有効にして、個別化と個性化を両方ミックスして、個別最適化を目指していきたいところなのです。

もう一つの協働的な学びというのは先ほどから話題になっておりました。クラウドの中でいろいろ子供と子供が繋がるっていうこともありますし、それから地域の人と繋がるってこともありますし、世界の裏側の国の子供たち、人々に繋がることのできるのはそれを一気に今までできなかったことができるのがタブレットの世界なのですけども、実はこれはリアルな関係でも一緒に、多様な考えに触れることによって自分とは違う人の考えに触れることによってですね、子供たちがいろんな課題に対して共通解を見つけて乗り越えていく力、つまり持続可能な社会の作り手を作っ

ていくのですよっていうのが指導要領の目指すものです。

子供たちが協働的な学びは別に ICT じゃなくてもできるのですが、地域の人から直接お話聞くだとか、隣の人と話し合うということでもできるのですけども、瞬時に効果的にやるという意味ではタブレットの活用はとても有効ですよということになってくると思います。

私達の扶桑町の教育委員会が目指しているのはあくまでも先ほどこから何遍も言っているのですけども、活用は手段でありまして文房具として活用してまいりますけれども、目的は先生たちがこれを上手に利用して授業改善をして、子供たちが学びの主人公になるように、子供に先生がチョーク 1 本、黒板一つで一斉授業をやるのではなくって、個別に 1 人 1 人が力をつけるために授業改善して、いい授業をしようというのが目標なので学びを委ねていくっていうキーワードでここ何年かを頑張りたいというふうに思っています。

タブレット今度更新していただけますし、すごくあのサクサクと 10 ギガにすると動くということで、春日井の先生が 1 ギガでは固まるよねっておっしゃったので、そうですよねって。春日井はたくさん学校あるし、大変ですよねって言ったら 10 あれば大丈夫でしょうって言ってくださったので大変ありがたいことで。

来年度の 12 月になりますけど、いろんなことのもう一歩進んだ状態になると。大変ありがたく感じている次第でございます。扶桑町の教育の方針とタブレットと指導要領の関係を少し整理してお話させていただきました。

頭が混乱しちゃったかもしれませんが、そういう感じで扶桑町としては捉えておりますので、よろしくお願ひしたいとご理解もしていただきたいなというふうに思います。

(議長)

その他にご質問ございますか。

(江口教育委員)

私はあのセキュリティについてなんですけど、このところ社会情勢が変化して SNS を利用した犯罪が増えているのですけど、例えばバイトの募集にすぐ反応していく若者のニュースを毎日のように見ると、大変心配になります。また、その中には未成年の子たちが含まれているものもあって、そこは親として不安になるのですけど、タブレットが 1 人 1 人に与えられて、家庭に持ち帰りがされているのですけど、様々なトラブルについても耳にするの

ですけど、特にまだスマートフォンを持たせてない子供たちもいると思うのですが、そういう子たちがやはり興味があったり、好奇心から簡単に SNS にアクセスできちゃうところ、うちの方はちょっと心配なんじゃないかなと思うところもあって、そのセキュリティっていうのはどういうふうになっているのかっていうことを教えていただきたいのと、それに関した保護者からのそのタブレットを巡る相談とか要望っていうのはあるのでしょうか。

(寺谷学校教育課指導主事)

まずタブレットのセキュリティに関する保護者の方からの要望というかお声なのですが、まず持ち帰りをしたときにやっぱり家庭の方針でスマートフォンだったりとかそういったものを持たせてないのだけど、も学校から持ち帰ってきた端末を使って長時間動画を見ている。そこを何とかしてほしいであったり、それからもうそもそも持ち帰りを家にあると何かやっぱり家庭でなかなか親が言っても制御ができないので、持ち帰ることそのものを何とかしてほしいそういった声をいただくことがあります。

まず扶桑町のタブレット端末のセキュリティに関してなんですけども、いろいろ世の中にいろいろなアプリが出回っておりまして、多分皆様がお持ちのスマートフォンだったりすると便利そうだなと思ったアプリは、ずっと入れて活用できると思いますけども、それはできないようになっております。

町教委へ相談を受けたら町教委で検討をしてこれなら安全性があるだろうとか学習で有効に使えるだろうとか、そういったことを検討してそれでそういったこと有効性を確認できたら、そのアプリを入れることができるインストールすることできるという仕組みになっておりますので簡単にアプリのインストールはできない仕様になっておりますし、SNS 等も簡単には繋がらないフィルタリングがかかっておりますので、簡単に繋がらないようにはなっております。ただし、新たな SNS 系はもう本当にすぐに出てきますので、それに瞬時に追いつけているかといったらちょっとそういったこともできていけませんので、抜け道と言ったら変ですけどもそういったことになってしまっております。また、長時間タブレットを使って何とかしてほしいという心の声もあったのですが、先ほど申し上げましたが、声にお応えするような形で一応習い事をしている中学生のことも想定をして夜 12 時から翌朝の 5 時、ここまではタブレット使えないようにそういった設定を全て

の端末にさせていただきましたので、夜中は使えないようになっております。

いろいろとセキュリティは講じていますが、フィルタリングソフト等も入れてセキュリティも講じていますけども、全てそれがすぐにそれを上回るような技術等も出てきておるのも現状なのですが、例えば、ナイフとかを想像していただきたいのですが、ナイフとか包丁とかそういったものもそうなのですが、ナイフを使って生徒を傷つけたとかいろんな事件ありますけども、そうは言っても、きっと包丁どのご家庭でも使えますし、刃物の危険性を理解した上で使っていただいて使っているのではないかなと思うのですが、タブレットもそれと一緒に、最後の最後は児童生徒たちの心構え。危険なふうにもなるし、上手に使えるものになるそういったものがやっぱり最後の最後は大切なのかというふうに考えております。

以前からもずっとやってきているのですが、引き続き端末の活用方法について指導したり、それからネットモラル、それがネットの危険性についてのそういったことについて指導し続けてタブレット端末から一旦離れて、自分の端末を持ったときにも身を守れるように、そういった指導を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

(議長)

ありがとうございます。それでは今の議題よろしいですかね。この件に関しましては町部局としましても更新の時期ということで、国の方もそういった通知を出してこれは県の方の基金を作って購入するとか、そういった具体的な手法も出ておりますので、厳しい財源ではございますけれども何とかやりくりをしまして、子供さん、そして先生方により良い授業を行っていただくように、しっかり予算の方ですね進めてまいりたいというふうに思っております。また、ネットワークの速度の確保についても、進めてまいりたいというふうに思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

ICTの進化って人類の進化だと思いますので抗えないものだと思いますし、ときにはやはり間違った方向性とか手段ですね使われるそういったこともあろうかと思っておりますけれども、そういったことはしっかりとやはり我々人の英知を絞って、これをより良い未来のために、まさに未来を生き抜く子供たちの力をつけるため

ということで進めていく必要があると思いますので、そういったしっかりと考え方を持って。自分もしっかりと生きていくために一生懸命使っております。私もこの歳になっても一生懸命自分の役場のデスクで文章を打って自分の挨拶文を作ったりしておりますし、エクセルでいろんな計算をしたりしておりますし、本当に遅れないように、現金も何とかペイとかですね、そういったことを勉強しながらやっております。スマホも一生懸命やって、SNSの投稿もやっておりますので、そういったことだと思いますけれども、しっかりとそういったことを間違いのないように、子供たちを指導して行って、すぐの言葉でお返しすればベストミックスそういうところだと思いますので、しっかりとそういった現在のものとですね過去の良かったものそういったものをしっかりとバランスをとりながら、子供たちの成長を見守っていくということで、私も努めてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

3. その他

(議長)

ありがとうございます。それでは最後の3. その他という議題をしてございますが何かございますでしょうか。事務局の方とか何かありますか。ございませんか。その他の委員さんからもよろしいですか何か。3はないようでございます。それでは本日は長時間にわたりご協議をいただきましてありがとうございます。

今年度は予定しております会議が本日の会議のみでございます。本日ご審議いただきましたことを整理しまして、町と教育委員会は円滑に意思疎通を図っていきまして、教育の課題等を共有して連携して教育行政を進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。

それでは事務局の方にお返しをしますお願いいたします。

(総務部長)

どうもありがとうございましたそれでは以上をもちまして、令和6年度第1回扶桑町総合教育会議を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

【午後15時00分終了】